

## (19)1002 食文化

### 食は文化

「食は、文化である」とは、よくいわれることですが、普段はあまり使わない、この食とはなにを意味しているのか考えてみたことがありますか？食というからには、近類語の食品・食物・食材・食事・食餌などとは、しょっと異なるはずです。最近では、英語からきたダイエットなどという言葉もあります。ちなみに、ダイエットは、日本では本来の意味が失われています。本来は、食事・食餌・食事療法などの意味ですから、拒食症の人では、どんどん食べることで治療になります。現代日本では、必ずしも、食事に関係なくとも、痩せること・スリムになること、あるいはその手段をダイエットと表現するようです。日本人は、外国由来の言葉を、その内容の意味を換えて使うことに不思議な才能があると思っていますが、これほどひどいのもあまりな

いのではないのでしょうか。ほかには、民主主義・中華（フランス）料理・パソコンなどのリース制度などなど。。明治維新の後でいわれた洋才和魂の精神の勇み足といったところでしょうか。

食は、内容的に食事に一番近いと考えます。食事は、ときに食べるものとしての食材・食物の意味も含んでいるし、食べることの習慣・形式・スタイル・マナーなどの意味も含むことがあると考えられます。これらは、まさしく文化として表現されるものです。

文化は、その地域の気候・風土・地理・地勢などの自然環境に影響されます。無理に移植された文化は、根付かず、発展しないのは、歴史の教えるところですが。ハンバーグ・スナック、それらに類似・近縁の食物を中心とする、いわゆるファーストフードの食事形態は、日本に根付くかというのは、興味ある設問です。すでに、ファーストフードに対抗するスローフードの勧めの流れがあります。

食事の習慣は、さきに（生活習慣急変病参照）話題にしましたが、生活習慣急変病の発生と強い関係があります。若いときに結構洋もの食べ物が好きだったのに、年を取ってくると、和ものに戻ってくるのは、よく見聞きます。若いときには、格好いい・美味しいと思ったのに、年を取ってくると遺伝子の指示する方向に戻ってくるのです。でも、格好いい・美味しいと思い続けると、遺伝子がswitch-onするかも知れません（意識が背丈をのばす参照）。

なぜ食事をするのか？

なぜ食事をするのか？これこそ、文化に大いに関係する問題です。原初的には、勿論、肉体の発達と維持という栄養学的に理解できる回答があります。では、われわれは、現代の日本における状況で、本当にお腹がすいて食べることがどれほど頻繁にあるのでしょうか。飢餓への恐怖に取って代わって、飽食・肥満・

生活習慣（急変）病への危惧が支配的になっているのが現状といえましょう。でも、3度のご飯が食べられるのは、地球上で2割という報告もあります。しかし、地球上の食糧の全体量は、充足しているという報告もあります（朝日新聞、2001年12月12日、13版11頁）。それによりますと、世界の穀物生産量18.7億トンに対して、推定必要量9億トン、家畜飼料用6.6億トンとされています。家畜飼料用というには、肉・酪製品を食べるために家畜を飼うためのもので、この数字をみると、肉食がいかに非効率的かがわかります。また、米国・日本での大量の食べ残しも問題です。米国4,300万トン、日本の家庭ゴミ900万トン、スーパー・コンビニ残飯700万トンに対して、世界の食糧援助総量は1,000万トンとされています。日本の家庭ゴミとして捨てる分を、もう少し大切に、丁寧に使い、残飯を少なくする工夫をすれば、もっと食糧援助を増やすことができるのです。地球上の富

の偏りが、テロの根源になっているとする指摘がしきりにあります。グローバル化の名を借りて、資源の局所独占をすることを止めなければ、付けは、自分のところに戻ってくるのです。

そして、近頃都会地で思うのは、残飯の処理とカラスの増え方です。東京でも、カラスが増えて大変と捕獲処分することもあるようです。筆者の住む多摩市では、以前には、大きな金属の箱に生ゴミも収集していて、その頃はあまりカラスも住宅地には居なかったようです。しかし、この箱の中に子供が遊び心(?)から入って、結局死亡したことがあった後で、プラスチック袋のまま収集車に持って行ってもらうことになりました。そうしたら、あっという間にカラスが増えて生ゴミを食い散らすようになりました。住民達は、本来の方法とは違うのですが、堅い容器に入れたりするようになりました。そうすると、また、あっという間に、カラスが来なくなり

ました。カラスは、学習能力が高く、餌がなくなれば、どこか余所へいくのです。極端に少なくなれば、カラスの絶対数も少なくなるのでしょう。これに対抗する人間は、学習能力が高すぎて余計な知識が邪魔になり、単純に餌を与えないようにするというような結論にならないということでしょうか。

## 一緒に食事

「こんど一緒に食事をしませんか」は、お腹が空いたときに、単純にお腹を満たしませんかの提案ではないのは理解できるでしょう。言い方は悪いけど、なにか別の魂胆があるときが、結構多いのではないですか。愛の告白・悪への誘惑・謝罪・罪滅ぼしなどなど、新しい交流・交友へのきっかけになる場面も考えられます。これを日本語ではお付き合いと表現します。でも、誘われるとそんなに悪い気持ちはしないし、よほど特別に事情がなければ受けたくなるのが人情というものです。断

れば、浮き世の義理を欠くこともあるでしょう。義理飯（ぎりめし）という言い方もあります。義理とか人情は、昔ほど表だって口にはしなくなりましたが、現在でも、わが国の社会の底流にある価値判断に影響を与える強力な要因であるように見えます。むしろ、義理・人情は、世界中の地域によって少しずつ異なる特有の形はあるにしても、どこにでもある生活の規範みたいなものといえるでしょう。それを全面的に否定することは、場合によっては、人と人の交流の潤滑油を奪い取ってしまうものといえるかもしれませぬ。わたしは、倫理とは、“人と人とが接触するときに、もっとも摩擦が少なくなるようなガイドライン”と理解しています。その意味で、義理人情は、倫理と部分的に重なるもの、あるいは、義理人情は、倫理の一側面を表現するものと考えられます。しかし、過剰になると義理人情は、非倫理的、人の道を踏むはずすもの、となります。ここで指摘しなければならない

のは、義理人情は多くは、日本では日本伝統的な感性にしたがうのに対して、倫理的という場合には、西洋文化のパラダイムに根ざしていると思われることがしばしばあることです。

二筋の論理がまかり通って居るところに、当代日本社会の難しさがあるのです。

## 挿し絵(2) マルセーユ港から

フランス・マルセーユの波止場から町の方を見て描きました。港に船から上がった魚が売られていましたが、臭いのです。日本人は食べないなと思いました。生きという感覚がないのでしょうか。これも、ところ変わればということでしょう。結構有名なレストランで、ブイヤベースを食べましたが、日本式の鍋物の方が良いなということになりました。当たり前だけど。